

武蔵野市市民活動推進委員会

第6回委員会 議事要旨

日時：平成28年11月1日（火）午後2時から午後4時

場所：武蔵野市役所812会議室

1 開会

- ―事務局より手持ち資料確認
- ―委員長より第6回委員会の内容説明

2 議事

(1) 中間のまとめ（案）について

- ・計画期間前半の振り返り
- ―事務局より資料1を基に説明を行う。

(質疑・意見交換)

■委員長

- ・本日は、前半の振り返りと、後期の計画推進に向けた新たな方向性と、実施計画、主に3つの見るべき項目がある。
- ・修正すべき点があれば、指摘いただきたい。前半の振り返りについては、主に今までの議論で出た意見を整理したものになる。比較的、我々が言った意見を取り込んでいる印象は持っているが、今までの委員会の発言で抜けていることがあれば、言っていただきたい。

■事務局

- ・文章の校正や、段落の構成、誤字脱字の指摘でもよいのでご意見をいただきたい。

■委員長

- ・自己評価の部分と委員会の評価の部分の記号を変えたらよいのではないか。

■委員

- ・ 2-2 「相談体制の充実」の委員会による評価の中で、コミセンと記載されているが、コミュニティセンターに直していただきたい。
- ・ 2-6 「中間支援組織等の支援力強化に向けた取組み」の委員会の評価の中で、「コミュニティ協議会における中間支援的役割にも期待したい。」と書かれているが、コミセンがNPOを支援するような関係を持ったほうがいいという意味なのか。

■委員長

- ・ この部分は、プレイスと市民社協と市の3者が中間支援的な機能を果たしていくとよいだろうという点と、中間支援組織としてのNPO法人の確立が課題である点、さらに、コミュニティ協議会も、地域における市民活動に対する中間支援的な役割が期待されているという点が記載されている。

■副委員長

- ・ 文章中の「協議会における」という表現がおかしいのではないか。「協議会の」という表現が正しいと思う。

■委員

- ・ 基本施策4の「課題解決のための『連携と協働』の」で切れてしまっているので「推進」を付け加えていただきたい。

■委員長

- ・ 細かい修正について、気づいた点があったら事務局に言っていただきたい。

(1) 中間のまとめ(案)について

- ・ 後期計画推進に向けた新たな方向性について

1. 市民活動に参加してもらう環境の創出

—事務局より資料2を基に説明を行う。

(質疑・意見交換)

■委員長

- ・ 1 番の「市民活動に参加してもらおう環境の創出」については、委員会の中では、若い人や勤労者だけでなく高齢者に活躍してもらおうことも大事だといった、意見が出ていたと思うが、もっといろいろなアイデアをいただけるとありがたいと思う。
- ・ 特に循環づくりという観点から作られているが、それでよいのか、もっと別の視点があるのか、何でも結構なのでご意見をいただきたい。

■委員

- ・ 循環づくりというか、回る仕組みのようなものをうまく作り出すと回っていきける。

■副委員長

- ・ 1-1 「地域活動への参加につなげる環境づくり」について、文章の流れとして、1 行目で、「当事者性があるということは重要な要素です。」の後に、入るときには当事者性があるが、それで終わらせず、それで終わらせずに続く仕組みが大事であると記載した上で「例えば」の文章に続いていくのが良いと思う。

■委員長

- ・ 確かに、当事者性から入って循環に移っていくというように少し議論が流れてしまっている感じがある。
- ・ 1-1 「地域活動への参加につなげる循環づくり」の最初に循環のイメージを宣言して、「例えば」の文章につなげていき、最後締めくくる。1-2 「魅力発信により参加につなげる循環づくり」については、地域の魅力を発信しながら地域の活動に参加してもらおうといった形でよいか。

(1) 中間のまとめ(案)について

- ・ 後期計画推進に向けた新たな方向性について

2. コーディネート機能の具体化

―事務局より資料2を基に説明を行う。

(質疑・意見交換)

■委員長

- ・議論の中では、最初はコーディネーターということで、人を中心にというところが始まったが、それだけではなく、空間がコーディネート機能を発揮することも大事だという話が出てきたので、2の大きなタイトルをコーディネート機能として、必要性や空間も含めた全体のコーディネート機能が必要であるとまとめている。
- ・現行の計画については、コミセンについてはあまり書かれていないが、コミセンについても意識しながら書いているという位置づけにもなっている。

■副委員長

- ・2-3「コーディネーターの役割」の中で、「環境、福祉、男女共同参画、国際交流など、特定のテーマに基づく市民活動の場合」と書いてあるが、「特定のテーマに基づく」という表現に違和感がある。「特定の」という表現だと狭い感じがする。地域だけでは解決できない問題ということでのよいのか。

■委員長

- ・テーマ型と地域型と分けたときのテーマ型に焦点を当てた文章である。環境保護団体であったり、男女共同参画を目指す団体であったりというイメージである。

■副委員長

- ・次の文章で、「地域コミュニティの範囲を超えた活動が必要となる場合があります。」と書いてあるので、「特定」を削除して、「などのテーマの」でよいと思う。
- ・2-4「コーディネート機能を生かす仕組み」の①「地域コミュニティにおけるコーディネート機能」は、後半部分の一文が長いかもしれない。

■委員長

- ・後で、事務局で文章の切り方を考えるということでのよいのか。

■委員

- ・2-3の文章の最後の「階層構造」という表現がわかりづらい。

■委員長

- ・各コミュニティ単位のコーディネーターに加え、全市レベルでコーディネーターをつなぐ役割を持ったコーディネーターが必要であるという意味になっている。

■委員

- ・コーディネーターのネットワークとは違うイメージなのか。

■委員長

- ・それでもよいと思う。そのネットワークをコーディネートする人が要るのではということで、こういった表現になっている。「階層構造」という表現を抜かしてもいいと思う。「コーディネーターのネットワークを生み出していくような役割が必要だ」といった表現の方がよいか。

■委員

- ・コーディネーターという言葉が多過ぎて、わけがわからなくなってしまう。コーディネーターのコーディネーターという言葉が違う言葉に言い換えられないか。コーディネーターという言葉にとらわれ過ぎている気がする。
- ・現計画もそうだが、できるだけその言葉を外して表現できたほうがよい気がする。

■副委員長

- ・コーディネーターという言葉を外すのは、大きな話なので、もう少し考えなくてはいけない。

■委員長

- ・コーディネーターをつなぎ、ネットワーク化する役割も持てるようにする、という表現はどうか。

■委員

- ・1つでまとめるとコーディネートという表現になってしまうが、コーディネーターというものを考えるときに、その言葉しか出てこない、イメージする範囲が狭くなってし

もう気がする。

■副委員長

- ・自分の知っているコーディネーターの顔しか出てこない感じがする。
- ・全市的な立場、全市に存在する様々多様なニーズを俯瞰し、一方でそれを助けるための支援の資源もよく把握し、それらの適切な結びつけができるような人がいるとよい、といった表現がよいのではないか。

■委員

- ・コーディネーターといわれたときに、様々な機能を持って、様々なことを調整する役目というのだが、イメージがつかめないと、コーディネーターのコーディネーターといってもコーディネーターということ自体が余計にわからなくなってしまう。
- ・言葉を入れて、何をするのかということを確認することで、役割が明確になってよいと思う。

■副委員長

- ・ニーズを俯瞰することや支援する人材の存在も把握しているということ。それを適切に配置することができる人である。

■委員長

- ・コーディネーターとは何かということを、言葉で説明できるようにすると、コーディネーターのイメージが湧きやすい。
- ・コーディネーターの役割は、様々なテーマに基づく市民活動の場合、コミュニティの範囲を超えた活動が必要であり、ニーズを俯瞰し、人材を把握し、適切に配置できるということが求められる。また、コーディネーターをネットワーク化していくようなことも大事であるという感じの流れでよいか。
- ・2-2「コーディネーターに求められる力量」としての図があるが、表現や他の力量が大事であるということがあればご意見をいただきたい。

■委員

- ・ 2-2 「コーディネーターに求められる力量」と 2-3 「コーディネーターの役割」の関係だが、流れとしては役割が明確になった上でそのための力量という方が文章的にはよいのではないか。

■委員長

- ・ 役割があってから、そのためにどういった力量が必要かという流れであり、よいと思う。

(1) 中間のまとめ(案)について

- ・ 後期計画推進に向けた新たな方向性について

3. コミュニティ政策との連携

—事務局より資料2を基に説明を行う。

(質疑・意見交換)

■委員長

- ・ もともと武蔵野市ではコミュニティ政策が進んでいたところで、NPO、さらには市民活動団体の支援という国の政策が出てきたので、両者がもっと連携しながら一緒になって進めていくべきだろうというような課題も出てきており、3番「コミュニティ政策との連携」があると理解していただいていると思う。
- ・ 3-2 「行政の適切な関わりをめざして」の3行目で、地域コミュニティ、コミュニティ協議会の課題として、「高齢化や担い手不足などの課題も顕在化しつつあります。」と書かれているが、特に問題はないか。

■委員

- ・ 「出てきております。」という表現のほうが良いのではないか。
- ・ また、地域フォーラムをかぎ括弧でくくったほうがわかりやすいと思う。

■副委員長

- ・ 3-2の2段落目の「行政はこれまで以上に地域に深くかかわり」という表現は誤解を招くかもしれないので、「地域とともに歩み」といった方がよいのではないか。やわらか

い表現ということと、対等、一緒にやるという感じがよいと思う。

■委員長

- ・対等感があるということは大事なことだと思う。

(1) 中間のまとめ(案)について

- ・後期計画推進に向けた新たな方向性について

4. 行政の役割

—事務局より資料2を基に説明を行う。

(質疑・意見交換)

■委員長

- ・学びの場というところは、前半の評価のところでも各項目で出てきたというのがあって、そのあたりをピックアップして、まとめたという形になっていると思う。

■委員

- ・段階的に一つずつ、様々な学びが具体的に書いてあって、そういったように学んでいけたらいいと思う内容になっている。

■委員

- ・武蔵野プレイスでも地域の課題などを知るために、外に出て行かなくてはいけない部分がある。一番大切な部分だと思っている。

■委員長

- ・特にプレイスは、行政と市民の間のようなところがある。

■委員

- ・市の事業が何をやっているかわからないときがある。

■委員

- ・やっているが届いていない部分もある。そういった意味では、市民と行政と一緒に地域の課題を学ぶ場というのは本当に求められていると思う。

■委員長

- ・市民の生活と行政の枠組みという、それぞれ本来的に違う世界なので、そこがつながっていくためには、ともに学ぶことは、大切だと思う。

■委員

- ・3-1の3段落目の「コミュニティ協議会を中心に取り組んでいる地域フォーラム」と表現されているのは、地域フォーラム自体が、コミュニティ協議会だけが中心でというニュアンスではなく、いろいろなところが地域フォーラムを主催できるようなニュアンスがあるといいと思う。

■委員

- ・「これからの地域コミュニティ検討委員会」では、最初は、地域フォーラムは場所を持っていて、地域のことを一番知っているコミセンが中心になってやっていくのがいいだろうということだった。ただ、中間報告のときに、いろいろなコミセンから意見いただいて、例えば福祉の会だったり、防災の会だったり、役所が問題を提起して、どんな方でも問題を持って来て主催者になるという形にしようというのが今の地域フォーラムの形である。
- ・今後の方向としては、そういう方向が望ましいのかもしれないが、現状としては確かにコミュニティ協議会が中心に取り組んでいる形になっている。

■副委員長

- ・「地域の課題解決のために市民活動団体も積極的に関わることにより」という記載があるので、「例えば、現在はコミュニティ協議会を」と入れたら、未来感が出ていいのではないかな。

■委員長

- ・現状ではまだコミュニティ協議会中心だが、今後いろいろかわりながらということなら大丈夫か。
- ・ちなみに、地域フォーラムを開催する場合には、コミュニティ協議会抜きでやるということはないという前提か。

■委員

- ・現時点での考え方としては、地域フォーラムの場合はコミュニティセンターを想定しており、コミュニティセンターを管理しているコミュニティ協議会が抜けるということが考えづらいということがある。
- ・また、地域の課題に、地域の中核的な団体であるコミュニティ協議会がかかわらないということは、意思形成の過程としても適切ではないのではということがあるので、コミュニティ協議会が現状深くかかわっている形になっていると思う。
- ・地域フォーラムは決してコミュニティエリアの問題をやるということではないので、例えば学校区単位での課題があり、防災などの課題の場合、学校区のエリアになるが、そうした場合は、複数のコミュニティ協議会がかかわっていくといった形での運営が行われているのが実情である。

■委員

- ・地域フォーラムはコミセン以外の場所ではやらないのか。

■委員

- ・現時点の想定でコミセン以外の場を探して行うということが難しいというのは実態ある。特に、コミセン以外の場でやるということになると、例えば施設の使用料をどう負担していくのかといった実務的な部分も出てくる。

■委員長

- ・おそらく、地域フォーラムは、まだ今、条例や要綱で定義されたものではないのではないかと。だから、「これからの地域コミュニティ検討委員会」の提言をもとにして、地域フォーラムという名前で、コミセンを使って、コミュニティ協議会が中心であったり、あ

るいは構成メンバーの1団体に入って議論しているのが実態だと思う。

- ・今、地域フォーラムは、コミュニティ協議会がかかわっているのが前提である。そうになると、先ほど出たように、「現在はコミュニティ協議会を中心に組み組んでいる」という形にするか、あるいは、もっと和らげて表現するのか、どれぐらいの感じがよいか。

■委員

- ・コミセンの関係の方たちにとっては、「中心に組み組んでいる」という文言で大丈夫だと思う。

■委員長

- ・「現在は」という言葉を入れて、「現在はコミュニティ協議会を中心に組み組んでいる地域フォーラム」という表現でいきたいと思う。

(1) 中間のまとめ(案)について

・実施計画について

—事務局より資料3を基に説明を行う。

(質疑・意見交換)

■委員長

- ・「課題解決のための『連携と協働』の推進」については、4-1が「連携と協働に向けたネットワークの構築」、4-2が、「連携と協働に向けた体制の構築」ということで、もともと庁内体制の構築だったものを、庁内だけではなく、民間等も含めて連携していくということだと思う。具体的な取り組み例を見ていくと、4-1のネットワークの構築は交流、情報交換といった基盤づくりが中心で、4-2の体制の構築では、実際の協働・連携に向けて進むための対策といった形で捉えてよいか。

■委員

- ・計画後期の展開の中で、再掲という表現があるが、どこの再掲なのかを記載した方が分かり易いと思う。
- ・4-2の①の「『連携と協働』の意識の共有」で、文章が「本計画に定められている『連

携・協働』の考え方を様々な団体が、共有し取り組んでいくことが必要である。」と記載されており、施策ではなくて課題出しになってしまっている。

■副委員長

- ・「団体が共有し取り組む機会の提供」とすればいいのではないか。情報発信も大事だと思うので、「取り組むための情報発信や機会の提供」という感じがよいと思う。
- ・4-1と4-2の違いが、わからなくなってしまった。4-2では、庁内からそれ以外のところまで含んだという形にしたということだが、情報提供については、4-1でも「企業・大学との協働に関する相談・情報提供などを実施する」と記載してある。

■委員長

- ・元々は4-1がネットワークの構築で、4-2はそのために庁内をどうするかということだったが、今回庁内だけではなくて民間との連携を含めたので、4-1重複する部分が出てきてしまっている。

■副委員長

- ・「庁内」の記載をなくしたとなっているが、文章などは庁内のことが書いてあるという気がする。
- ・当初の計画では、庁内の体制についての記載だったが、今回は、中と外の関係の構築といった形に重点が移動したのだと思う。

■委員長

- ・市民活動推進課としては、4-2を重点施策にするということは、今の庁内体制を固めるとともに民間の組織とも連携し、協働に基づいて進めていくということを推進していくために重点にしているということによいか。

■委員

- ・改めて見ると、4-2の②、③、④、⑤は、全て庁内体制と考えることができ、前文の3つのプロセスも全て庁内でのことになっているので、それを重点化していくということとは難しいと思う。

■副委員長

- ・よく学生に、題と中身が違うという話をするが、そういった感じがする。
- ・市の方が地域のことを学ぶと書いてあることは、画期的なことではないかと思う。

■委員長

- ・重点施策になっていることは、大事なことだと思うが、重点施策にするのであれば「市内」を除いて、全体の体制としたほうがよいと思う。
- ・もしくは、4-2を生かすということは大事だと思うので、4-1を変えたほうがいいのかもかもしれない。
- ・今の計画の策定の時に強調されたのがマルチステークホルダーという考え方で、市民と行政が協働するだけではなく、様々なタイプのセクターと一緒にやっていくという考え方が大事であるということが、出発点にある。

■委員

- ・修正前の4-2「地域としての『連携と協働』に向けた体制の構築」という表題であれば、行政側からの体制づくりというのがわかると思う。4-2の①に記載してある様々な団体という表現に、行政が入っているのであれば、このままでいいと思う。

■副委員長

- ・市としても計画目標を実現するために体制を整えていく宣言という形になると良いと思う。

■委員長

- ・今日出された課題については、事務局で「中間のまとめ」を修正し、意見を反映するということにしたい。

(2) 中間のまとめ構成について

—事務局より資料4を基に説明を行う。

(質疑・意見交換)

■委員長

- ・パブコメを出すときに、現行の計画の変わらない部分があるが、参考に添付して市民に情報を提供するののか。

■事務局

- ・一つ懸念されることとして、現行の計画をあわせて出すことによって、現行の計画のほうにご意見をいただいでしまう可能性があるので、資料として現行の計画の冊子を渡したり、ホームページで確認していただくという形になる。

(3) 今後のスケジュール案

- －事務局より資料5を基に説明を行う。

(質疑・意見交換)

■事務局

- ・今回の委員会でいただいた意見を反映し、修正したものを皆さんに送り、再度ご意見をいただきたい。
- ・ご意見をいただいたものを基に、「中間のまとめ」作成を予定しているが、作成にあたって、もう一度委員会を開催することは難しい。ご賛同いただけるのであれば、皆さんに意見をいただいたのち、委員長、副委員長に一任していただくという形の協議の場を設けたいと思っているが、委員長、副委員長に一任していただくということによろしいか。

- －全委員より了承いただく。

3 事務連絡

- －事務局より事務連絡

4 閉会

以上